

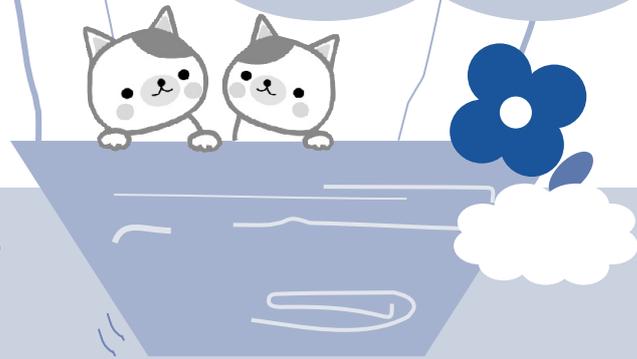
ちいきのわ

発行 豊中市 政策企画部 コミュニティ政策室

- とよなか夢基金…P1
- 寄付者へインタビュー…P2
- 助成団体へインタビュー…P3
- まちかど掲示板…P4

ご存じですか

とよなか夢基金



とよなか夢基金は、市民活動を支え、応援するために市がつくった「貯金箱」。「市民活動を応援したい」という市民や事業者のみなさんの思いを寄付金の形で受け取り、積み立てる仕組みです。

なぜ、このような取組みをしているのでしょうか。

積み立てた寄付金は、毎年、さまざまな市民活動への助成金(市民公益活動推進助成金)として活用しています。寄付をした人の思いはどのように活かされているのでしょうか。寄付者と助成を受けた団体にお話を伺いました。



寄付者へのインタビュー

「寄付」は未来へのバトン



豊中マンション管理士会
会長 蛭子 公雄さん

助成をきっかけに活動が活発に

豊中市の市民公益活動推進助成金を受けたことへの感謝の気持ちと、少しでも、当時の私たちと同じような状況にある市民団体のお役に立てばとの思いを込めて寄付をしています。

助成を受けたのは、平成18年から2年間でした。したいことがいっぱいあっても活動資金がなく、実施できないことを悩んでいたときに、助成制度があることを知り申し込みました。しかし、交付を受けるまでの手続きで審査員からいただいたご意見やご指摘は、非常に厳しいものでした。今となっては、そのことが私たちに目指す方向を再確認させ、社会が求めていることとの一致点をはっきり自覚させたと思います。この助成金は、資金面だけでなく、運営面もあわせ、その後の当会が「ホップ・ステップ・ジャンプ」と成長していく過程につながったと感じています。

私たちが、この助成により開催したセミナーは、会場が満席になるほど盛況で、当会の活動は全国に知られるようになりました。現在、定期的に無料相談会を行い、新しく吹田市と茨木市でマンション管理士会を発足するなど活動が活発です。今



マンション住民のための運営管理セミナー

度はお返しする立場として、せめて2年間でいただいた20万円を次の団体に活かしてもらうために、平成21年より「とよなか夢基金」に寄付を始めました。

助成団体に望む

「とよなか夢基金」はまだ知名度が低いので、賛同者を増やすことが必要だと思います。助成を受けた団体に、自分たちの催しが夢基金をもとにした助成金で開催できていることや、夢基金とはどのような制度なのかを自身の事業の中で、話してもらうのも1つの方法だと思います。助成団体にとっても、大事なお金をいただいているのだということの再認識につながるとともに、具体例を目の前にしての、市民から市民への直接アピールは、PR効果も高いのではないかと思います。

団体紹介

平成17年設立（会員5人（現在20人））。マンション管理士（国家資格）を持った人たちが、知識の社会還元を目的に設立。モットーは「清く、正しく、美しく」。現在、定期的にマンションの適切な運営管理をするための無料相談会やセミナー、出前相談会を行っている。

助成団体へのインタビュー

夢基金に託された「思い」と共に

豊中だがしや楽校実行委員会
竹本美恵さん、田中久美子さん

寄付者も「活動者」

市民公益活動推進助成金の一部に「とよなか夢基金」への寄付金が使われていることを知り、「市民公益活動に関心を持ち寄付して下さった方がこんなたくさんいるのだ」と驚くとともに、とても嬉しく思いました。



田中久美子さん

寄付をしていただいている人たちの中には、活動したくてもさまざまな事情でできない人たちがいて、寄付金にはその人たちの思いが託されている。私たちは、そういう人たちと一緒に活動しているんだと思います。

助成を受けるということ

初めて助成を受けた平成19年当時は、資金援助と広報を目的に申し込んだのですが、実際に助成を受けてみると、より多くの人に喜んでもらえる

団体紹介

平成18年4月設立。かつての駄菓子屋がそうであったように、地域社会での交流により子どもたちの社会力を育もう、という「だがしや楽校」の理念に共感し、地元岡町で活動を開始。おかまち商店街の夜店大会への出店や子ども向けの催しを行ない、店を営む立場として、また、子を持つ親の視点で、地域社会の活性化をはかる。平成22年4月に「豊中だがしや楽校フォーラム～手塚治虫と私たちの社会・子どもたちの未来～」を開催。

活動にしたいという気持ちが強くなりました。

正直なところ、助成金を受けるとことは精神的にとても“しんどい”です。私（竹本さん）は商売をしていますから、お金を稼ぐことの大変さは身にしみています。いただいた貴重なお金を使って活動する、その責任の重さに押しつぶされそうになったこともあり。それでも助成を受け、今年大規模なフォーラムを開催したのは、地域の人たちに私たちの思いや活動をもっと知ってほしいと思ったからです。子どもたちを取り巻く環境が、商店街が、社会が、良くなればいい、そんな思いで活動をつづけています。

助成を受けることは、審査のためのプレゼンや事業の報告会も含め、大変なことも多いですが、自分たちの活動を振り返り社会的意義を認識するよい機会になったと思います。



竹本美恵さん



▲豊中だがしや楽校フォーラム

市民活動が活発になることを願って

子どもの教育のために、高齢者や障害者の福祉のために、地域の安全を守るために……。身近な地域で多くの市民団体が活動し、商店や企業などが商品やサービスを提供し、市が必要制度づくりなどを行っています。その動機や手法、内容はさまざまですが、自分たちの住む地域を、さらには豊中全体を良くしていきたいという思いは共通のものであります。

このように、さまざまな人たちによって豊中のまちは支えられています。その支える仕組みや制度を充実していくことで、もっと住みやすいまちになる。そのような思いから、市は平成20年（2008年）12月に、寄付金を活用する仕組みを取り入れた「とよなか夢基金」をつくりました。



▲平成21年度の助成事業「豊中和太鼓祭り」



▲平成21年度の助成事業「森でリトミック」

寄付金はどのように使われているの？

助成を希望する団体の申込みは、毎年、公募で受け付け、審査の一部は公開しています。また、助成後には、助成を受けた団体が活動内容や成果をアピールする報告会を開催します。また、助成事業の内容は図書館などの公共施設にあるリーフレットや市ホームページでご覧になれます。



店内の様子

2010年5月12日、刀根山校区福祉委員会が運営する「刀根山まちかどステーションほたる」が開店しました。ここは、だれでも気軽に訪れることができる地域の交流の場です。ボランティアスタッフがコーヒー・紅茶のサービスを提供し、利用者が運営資金として“お気持ち料”100円を支払う仕組みです。これまで刀根山校区では、ひとり暮らしをしている高齢者の「見守り活動」や地域で孤立しないための友だちづくりの「ふれあいサロン」などを開いています。しかし、もっと多くの人と集まりやすい場所で交流したいとの声から食を通じた交流スペースとして営業されている「街のリビング ぼすと」の場所を借り受け、開設しました。

蛭池駅東側に地域の交流の場ができました



スタッフ

ひとり暮らしのご年配の方や子育て中のお母さん方に利用してもらえれば。
(半谷郁子さん・前列左)

ボランティアスタッフの皆さんは、「これまで地域とのつながりがなかったから、皆との関係を築いていきたい」、「活動をきっかけに知り合いが増えるのは嬉しい」、「子育て中や団塊世代の人々が知り合える場になって欲しい」など地域のつながりの場として期待を寄せています。

まちかどステーション
ほたる



刀根山校区福祉委員会
西田正男さんより情報
提供をいただきました。
ありがとうございました。

刀根山まちかどステーションほたる

開館日時：毎週水曜 午後1時～5時
(8月18日はお休み)

場 所：蛭池東町2-7-2
「街のリビング ぼすと」内
お問合せ先
刀根山校区福祉委員会 西田さん
電話 6852-6587



発行

豊中市 政策企画部 コミュニティ政策室

〒561-8501 豊中市中桜塚3-1-1 (豊中市役所 第二庁舎3階)

TEL 06-6858-2727 FAX 06-6858-2667

メール community@city.toyonaka.osaka.jp

市ホームページ <http://www.city.toyonaka.osaka.jp/top/bousai/npo/index.html>